

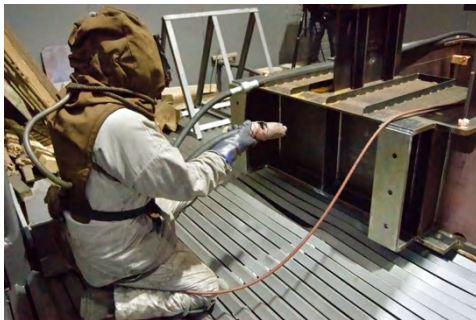


【審査証明番号／有効期限】	BCJ-審査証明-104/2026年5月16日
【技術の名称】	特殊亜鉛塗料による鋼材防食技術 「Cold Galvanizing ローバル工法」
【依頼者(審査証明取得者)】	ローバル株式会社

【技術概要】

本工法は、鋼材及び亜鉛めっき鋼材に素地調整を行った後、「亜鉛粉末、スチレンアクリル共重合樹脂またはエポキシ樹脂、有機溶剤の混合物であるローバルシリーズ(ローバル、エポローバル、ローバルアルファ、ローバルシルバー)」(以下、「ローバルシリーズ」という)を常温で塗装することにより、寸法・形状・施工場所の制限を受けることなく、溶融亜鉛めっきJIS H 8641 HDZ55(めっき付着量550g/m²以上)と同等の防食性能を有する塗膜を形成する技術である。

1.素地調整



2.塗装



3.膜厚管理



【開発の趣旨】

鋼材などの長期防食には、防食性能に優れた溶融亜鉛めっきが広い分野で採用されているが、その施工は鋼材の寸法・形状、施工場所などにおいて制限を受ける。本工法はこれらの制限を受けることなく、工場及び現場施工における常温での塗装により、溶融亜鉛めっきと同等の防食性能を有する塗膜を形成する技術として開発したものである。

【開発目標および審査証明結果】

本技術について、前記の開発の趣旨及び開発の目標に照らして審査した結果は、以下のとおりである。

- (1) 一般構造用圧延鋼材(JIS G 3101)を素地調整し、ローバルシリーズを平均乾燥膜厚80μm以上塗装することにより、耐湿性試験、中性塩水噴霧試験、キャス試験、中性塩水噴霧サイクル試験、人工酸性雨サイクル試験、二酸化硫黄ガス試験、大気暴露試験において、溶融亜鉛めっきJIS H 8641 HDZ55(めっき付着量550g/m²以上)と同等の防食性能を有する塗膜を形成するものと判断される。
- (2) 溶融亜鉛めっき鋼板(JIS G 3302 両面めっき付着量80g/m²以上)を素地調整し、ローバルシリーズを平均乾燥膜厚40μm以上塗装することにより、耐湿性試験、中性塩水噴霧試験、キャス試験、中性塩水噴霧サイクル試験、人工酸性雨サイクル試験、大気暴露試験において、溶融亜鉛めっきJIS H 8641 HDZ55(めっき付着量550g/m²以上)と同等の防食性能を有する塗膜を形成するものと判断される。
- (3) 亜鉛めっき槽に浸漬(処理温度440~480℃)を行わず、常温で施工を行うことにより、設計・製作加工・施工をする上での制約を受けないものと判断される。

【本技術の問い合わせ先】

ローバル株式会社
技術サービス部
TEL : 072-892-7791
技術紹介サイト
<https://www.roval.co.jp/>

